

第2回外務省政策会議 (概要記録)

日時：10月7日 14:00～15:00

場所：衆議院第二議員会館 第一会議室

出席議員の概数：40名程度

議題：平成22年度予算の概算要求

1. 外務省からの報告（平成22年度予算概算要求について）

冒頭、武正副大臣より、政策会議については会議の性質上何かを決めるという性質のものではないが、会議を通じてご意見やご提案を積極的にお寄せいただきたい旨述べ、続いて外務省の事務方より、平成22年度概算要求の概要につき、「平成22年度概算要求・要望」（8月31日提出）に基づき説明した。

2. 質疑応答（12名の出席議員が発言）

出席議員からは、大きく分かれて、外交戦略、無駄遣いの撲滅、政策会議自体の進め方、資料の提出を含めた外務省からの情報提供の在り方、外務省として説明責任を果たす必要性、その他各種政策について提案がなされた。具体的なコメント等は以下のとおり。

- ・ 無駄はどんどん切る必要がある。
- ・ もっと詳細な資料を用意する必要がある。
- ・ 義務的経費と裁量的経費の区分の根拠を明確に説明すべき。
- ・ 概算要求の「3つの柱」が予算要求にどのように反映されているか明らかでない。政策と予算要求の整合性を確保することが必要。
- ・ 外交官の在外での手当を見直すべき。
- ・ 我が国のODAが本当に相手国国民に役立っているのか精査すべき。
- ・ 自衛隊の海外派遣は本当に現地で成果を上げているのか。
- ・ 11月のオバマ米大統領訪日時に、世界平和を話し合う場を作る旨提案してはどうか。
- ・ 日本は国際司法裁判所規程第36条2項の選択条項受諾宣言を留保なしで受諾すべき。

以上を受け、福山副大臣より、外交はともすると一般国民に分かりにくいものとなっており、政策会議等を通じて説明責任を果たしていきたい、与党議員の外務省への照会方法についても追って提示したい旨述べた。

< 配布資料をファイルで添付 >

(以上)